グリーンバンクサポータークラブ会報

第 80 号

2020年 12 月 15 日発行　会員数61

”花には力あり”

特定非営利活動法人　勝間田塾
山本秀子さん

益田満智子さん

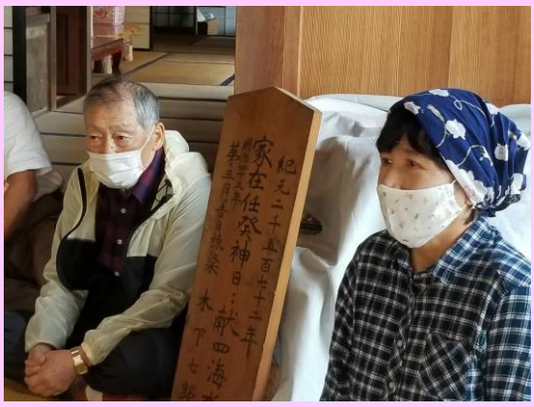
T-MOS（ともす）
大杉光枝さん

　2004 年の浜名湖花博の時からボランティアグループの活動を見ている中で、１０年後２０年後はこんな姿が街づくりに大切だろうと直感し予想どおりにそのような時代になってきました。
その後いろんな団体から研修や指導、アドバイスの依頼を受けるようになり、いつも二つの事を大切にしています。
①人と人の繋がりを大切に。全ての人に感謝と尊敬の念をもって接すること。②街の花づくり活動は、土からはじまり基本的な事項を守りながら継続していく努力をすること。
この２点は長く仕事を続け社会にお役に立てるための礎であると考え、自分に言い聞かせる言葉でもあります。結果として、協力してくれる人も増え、現場の質も向上しました。
　昨年、川崎市の等々力緑地という公園の実習花壇に親子がスケッチに来てくれました。また、ウォーキング、犬の散歩や買い物の道順を変更してまでこの花壇の横を通ってくれる市民が格段に増えたとメールを担当者から戴きました。
私の指導は、基本的な事を理解し植物が生かされる組み合わせを皆で考え実行。管理に必要な事を伝え、皆で協力して自発的にやってもらいます。私は、「花には力があり、花が人と人とのコミュニケーションを促進する」と心から信じています。
　浜名湖花博から受けた皆様の恩情と技術的な恵みは計り知れないものがあります。個人、団体に限らず、私の出来る範囲で少しでも返し続けていきたいと思うこの頃です。

ひかるガーデンズ有限会社　代表取締役　徳原真人

取材・編集　中村道代　取材協力　梅川友子　木村久代　斉藤勝江　斎藤玉子　瀧絹代　千葉祥子　藤田ふみ枝

１　牧之原市　特定非営利活動法人　勝間田塾　山本秀子さん



山本さん（ご主人）と秀子さん

勝間田塾は江戸時代の名主木下家から平成１６年に牧之原市に寄贈され平成 20 年に地元有志による「木下家保存会」が立ち上げられ翌年当塾が設立されました。歴史的建造物の保存と活用を通して、郷土の歴史と文化を再認識し、茶生産を主体とした里山の自然環境を守り、元気な農村の復活を図ることを目指しています。私は２年目から参加して、最近では小学校の子供を招いて蕎麦打ち体験をやりました。子供たちは広い畳の部屋で手足を伸ばして「気持ちいい～！」って　ね。蕎麦打ちもわかる子がわからない子に自然に教えたり。そういう子供たちを見ていると本当に嬉しい。尺八のコンサートをやったこともあります。お琴を演奏してもらったり。人を集めるのが大変だったけれどやって良かった。夫も手先が器用でいろいろ作ったり補修したり、今は販売するお正月のしめ縄づくりの準備をしています。そう、野菜も栽培していて販売し運営費用に充てています。主に 5 人が通って活動していますがやりたいことがありすぎて。この場所はまさに人生の終活場所。私たちにとって生き甲斐なんですよ。

元学校の先生横山夫妻（左、右）
2 年前秋田から移住の三浦さん（中央）
歴史や活動の様子を丁寧に熱心に教えてくれました。三浦さんは人に尽くしたい気持ちがあり塾に入りさっそく盆踊り大会を企画実施したそうです。

あなたにとって花とは　榛原病院と榛原庁舎の花壇もボランティア参加しています。塾の花壇は今は忙しくてなかなか手が回っていませんが（苦笑）。花はこうして人との繋がりをもたらしてくれるものですね。

皆さんの子供を守り地域の文化や歴史をつないでいくのだという気持ちがとても伝わってきました。私たちが取材にいくということで（子供たちの体験の試しに作ったという）お蕎麦やてんぷらを用意してくれ、おいしい牧之原のお茶を淹れてくれたり山本さんは御三どんに忙しくて。いつ話聞けるのかな～と思ったり（笑）そういう人の気持ちが建物に満たされ、癒されて清々しい気持ちになれました。

中村道代

２　吉田町　益田満智子さん

【　第 30 回（2020）全国花のまちづくりコンクール　優秀賞　推進協議会長賞受賞　】

受賞、本当におめでとうございます。今回は菊のお話を中心にお聞きしました。

自宅花壇を地域の皆さんに開放。学校などの花壇ボランティアに取り組んでいます。受賞して町長にお会いしたら、「こんどは大臣賞を取ってください！」と言われました。心房細動を患っているのでどうかな～とは思うのですが、頑張ります。朝目が覚めたら第一にお花です。11年前に菊の師匠の野尻さんに出会って吉田公園で３００くらい作ったのですがそれが面白くて。それが菊にのめり込むきっかけですね。菊は好みの形を作るのが特に面白い。毎日お世話します。手がとにかくかかりますが頑張って花も葉も形も全て整い咲いたとき本当に喜びがあります。近所の人たちが家の前を通って見て下さる。そして元気になったり優しい気持ちになってくれる。それがうれしいです。

◆頼りがいある菊友のお二人
野尻さん（左）は吉田全体を花にしようと学校や警察などの花壇もてがけ、気持ちが穏やかになると言われるとのこと。がんを克服したそうですが満智子さん曰く菊の栽培があるからと。
光地さん（右）は焼津菊の会代表
花を愛する人は心がきれい。菊の花が咲いたときの皆の笑顔が良いと話してくれました。

益田さん（ご主人）と満智子さん

あなたにとって花とは　菊では福助が好きですね。体調悪くても花のお世話をしている時は大丈夫。花が好きです。ご主人は水やりをしてくれるそうですが「生き生きしている奥様を見てどうですか？」と聞いたところ一言「え～だな。」と笑顔で答えてくれました。ごちそうさまでした。

見事な菊を眺めながらお庭でお話を伺いました。撮りためた１０冊以上もの花の写真を見、手入れの行き届いた落ち着く庭だなあ～とボーっと眺めていたら「近所の方々が花を見に訪れるので前の道を〈散歩道〉と名付けましたと。慈しみ大事に育ててきた気持ちが伝わってくる様な温かい優しい笑顔が輝いて見えました。裏庭の大きな桜の木、咲いたら見事だろうな～とワクワクしてたら帰り際「春になったら桜を見にいらっしゃい」と言って下さりこうして花が人を繋げ心を穏やかに豊かにしていくのだと実感。お話、笑顔、笑い声様々なものに楽しく感動したひと時でした。　千葉祥子

３　藤枝市　Ｔ-ＭＯＳ（ともす）大杉光枝さん

今年の３月グリーンバンクの研修でおなじみの徳原先生の研修（造園組合主催）に参加。そのあと先生に託されて原静男さんと槇原とも子さんと私３人で花壇を管理しています。「徳原先生の花心をここ藤枝市郷土博物館に“ともす”」という意味で名前を付けました。

私は、４０年くらい前から切り花に始まり、実家では園芸店を営み今は積極的にハンギングに取り組んでいます。藤枝市は２０１７年に世界１長い花の列「ギネス世界記録」を達成したり花の政策がさかんで、藤枝市花の会による藤枝駅の待合室のお花、駅前ロータリーのハンギングの活動にも参加しています。“ともす”の活動は本当に楽しくやっています。主な活動は月１回で、作業していると声をかけて頂いたり写真を撮ってくれる方がいたり。とにかくいつも花壇がきれいでいることを心掛けています。時々花を切って博物館に差し上げて飾ってもらうこともあります。徳原先生に写真メールを送ると誉めてくれるのも楽しみの一つですね。

ともすによる博物館前花壇

藤枝市花の会によるハンギング

原さんの資料でわかりやすい説明

あなたにとって花とは

大杉さん　17 歳から花に関わって生花、造花、フラワーデザイン、コンテナマスター等々趣味が仕事になって、花は全てです。

槇原さん　藤枝市花の会でも活動。３０年前から花と関わり生き甲斐であり癒し。

原さん　定年退職し、徳原先生の言葉「花を植える。人が集まる。つながる。幸せにする。」の言葉に第２の人生はこれだ！と。今では藤枝市花の会、保育園、公園でも花壇活動をしています。

花の研修を受けると、勉強になるな、何かしたいなと思います。研修を受けた場所で、講師から直接指導を受けながら実践する、正直羨ましかったです。　花の魅力で人と人を繋ぐという徳原先生の教えをとことん忠実に実践する３人の心意気に打たれました。写真を撮るのも上手で、花壇や活動の写真もとても素敵でした。写真で活動を残して行くのも大事ですね。　藤枝市はふじえだ花回廊として、町中を花の溢れる町作りを実践しています、その活動に参加する人も大勢います、他の町にも波及して欲しいです。

斎藤　玉子